

国際大会までの道のり

国際生物学オリンピック (International Biology Olympiad:IBO) について



国際生物学オリンピック (IBO) は生物学に関心を持つ高校生等を対象とした国際的なコンテストです。

- 生物学の問題や実験に挑戦し、生物学への興味と創造性やなばりづよさを競う。
- 参加する生徒の能力を伸ばし、科学者への道に導く。
- 生物学を学ぶ生徒どうしの国際的交流の機会をあたえる。
- 生物学教育に関するアイデアと教材の国際的な交換を推進する。

これらを目的に1990年に旧チェコ・スロバキアのオルモウツで第1回大会が開催されて以来、毎年開催国を持ち回りにより開催されています。

コンテストは、生物学に関する理論課題試験と実技課題試験によって競われます。また、それだけでなく、参加者同士の国際的交流をはかることも重要な要素とされています。毎年7月に開催される大会には、各々の国内選考を経て選ばれた4名の代表生徒と引率役員が各国・地域から参加します。

日本生物学オリンピック

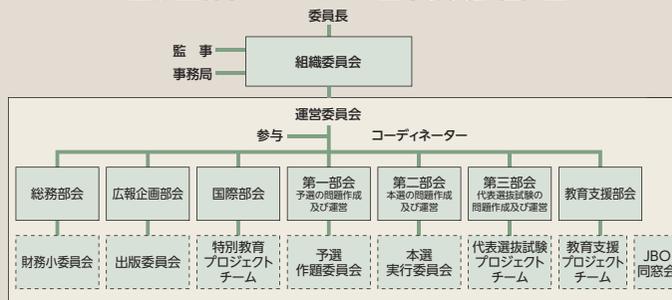
浅島 誠 (日本生物学オリンピック組織委員会委員長)



国際生物学オリンピックへの参加、および国内大会である日本生物学オリンピックの実施は、生物学に対して優れた資質を有する生徒を励まし、各自の生物学に対する興味関心を最大限に引き出すチャレンジの機会を提供するとともに、その能力をさらに伸ばす次のステップを与えることができます。また、生徒のみならずその周辺にも広く生物学への意識を喚起し、才能ある若者の発掘・育成の必要性や意義に対する国民の理解を促進します。これらにより、生物学の知識を普及しつつ関心の向上と理解の増進を図り、国際的に活躍する研究者・技術者をめざす若者の増加、それに加えて我が国の生物学教育の発展向上を目指す活動への社会的コンセンサスの形成に寄与することが、本事業の目的です。

本事業は、高校生、中学生や高等専門学校生等及び保護者はもとより、教員、各都道府県市教育委員会、生物科学に関わる大学や研究開発機関の研究者まで広く国民に周知を図る必要があるため、文部科学省の後援を受けています。

国際生物学オリンピック日本委員会組織図



日本生物学オリンピック

2014

Japan Biology Olympiad 2014

未来の生物学を創るのは君だ

参加申込締切日

2014年5月31日(土)
(当日消印有効)

予選開催日時

2014年7月20日(日)

詳しくはJBOウェブページ上の募集要項ほかをご覧ください。

<http://www.jbo-info.jp>



国際生物学オリンピック日本委員会 JBO

申込み
日本生物学
オリンピック
参加申し込み

予選
理論問題
80名選出

本選
夏休み3泊4日
合宿形式
15名選出

代表選抜試験
4名選出

特別教育

国際大会

参加申し込み方法

募集要項、またはJBOのウェブページにある日本生物学オリンピック2014参加申込書に必要事項を記入して郵送する方法と、申込専用のウェブページの指示にしたがって直接入力して申し込み方法とがあります。

日本生物学オリンピック 2014予選

日程 2014年7月20日(日) 13:30~15:00(90分)
会場 各都道府県内の大学及び高等学校(会場詳細は、ウェブページ<http://www.jbo-info.jp>参照。)

参加資格 20歳未満で大学に入学する前の青少年の皆さんです。高等学校、高等専門学校(3年生以下)、中等教育学校、中学校の在籍者。高等学校卒業程度認定試験受験資格のある方、予備校生など。

日本生物学オリンピック2014本選(つくば大会)

日程 2014年8月16日(土)~8月19日(火)(3泊4日)
会場 国立大学法人筑波大学(茨城県つくば市天王台1-1-1)
(<https://www.tsukuba.ac.jp>)

参加資格 予選で選ばれた約80名。
国際大会の実験問題を模して作成される実験試験同時にサイエンスカフェを楽しむ合宿

代表選抜試験

日程 2015年3月21日(祝・土) 9:00~16:00
会場 科学技術館(東京都千代田区北の丸公園2-1)
(<http://www.jsf.or.jp/>)

参加資格 予選と本選の成績を総合して選ばれた高校2年生以下約15名。
日本代表4名と次点2名を選考します。
国際大会と同等レベルの問題が出題されます。

特別教育として

- ①講義・実験実習を通して、生物学のセンスやスキルを磨き、国際大会に相応しい実力をつける。
 - ②積極的な質問やディスカッションを通して、理論的考察力を高め、自学自習を円滑に進めるための機会とする。
 - ③合宿形式のトレーニングを通して互いの交友を深め、連帯感を育むと同時に、国際大会での交流や課題に取り組む力を養う。
- 第26回国際生物学オリンピックは2015年7月12~19日(予定)にデンマーク/オーフス市で開催されます。

今後の国際大会開催国

- 第25回 2014年 インドネシア
- 第26回 2015年 デンマーク
- 第27回 2016年 ベトナム
- 第28回 2017年 英国
- 第29回 2018年 イラン
- 第30回 2019年 ハンガリー(予定)
- 第31回 2020年 日本(予定)



主催 国際生物学オリンピック日本委員会 JBO URL: <http://www.jbo-info.jp>
〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園2-1 科学技術館内 E-mail: jbo@jsf.or.jp

共催 筑波大学/広島大学/茨城県/茨城県教育委員会/つくば市
つくば科学万博記念財団/高等学校文化連盟全国自然科学専門部
科学技術振興機構/日本科学技術振興財団

協賛 東レ/JT/味の素/キッコーマン/メルク/アジレント・テクノロジー
日本製薬団体連合会/東進ハイスクール・東進衛星予備校/Z会/日本動物学会

協力 はるやま商事/丸善出版/日本発明振興協会

後援 文部科学省/生物科学学会連合

国際大会に参加する日本代表の皆さんへ

羽入 佐和子(お茶の水女子大学学長)

国際大会に日本の高校生の代表として参加することは、否応なく「日本の」という修飾がついてまわることになります。とくに先年、私たちは大きな災害を経験しましたが、世界は日本の今後に注目していますし、日本の若い世代がこの事態をどのように感じ、何を考えているか、とくに「生物学」という「生きもの」への興味をもつ若者が、どの様にその能力を發揮しようとしているのかには、ことのほか関心が寄せられていることと思います。皆様には、このような問いにも真摯に向き合っただけのものご期待しています。

知は力となり、人を輝かせるものではありませんが、時に人を醜くもします。その違いは、知を駆使用する者が人間としてどれだけ深く思索し、多くの経験を積んでいるかに依存しているように思います。したがって、優れた才能をもつ皆様には、今持っている知識をさらに練磨し、経験を積み、人間としていっそう輝やいていただきたいと願ひ、この度のオリンピックはそのきっかけになるにちがいないと確信しています。

この日を迎えられたことはご自身の努力の結果であることはもちろんですが、周囲の多くのご支援があったことも常に心に刻み、それを次の世代に引き継いでいただきますようお願いいたします。

そして何よりもオリンピックでの皆様のご健闘と、皆様の未来のご活躍に心からのエールを送ります。(IBO2011台湾大会日本代表団結団式にて)



国際生物学オリンピックを振り返って

坂本 莉沙(2010韓国大会参加者、お茶の水女子大学 理学部生物学科4年生)

「日本の生物好きがあんなに面白い人たちだから世界の生物好きも面白い人がたくさんいるだろう。その人たちに会いたい。」代表候補に選ばれたときにこの気持ちが芽生えました。代表に選ばれたときに「会える!」という嬉しさにいっぱいでした。

代表に選ばれてから様々な特別教育を受けさせていただきました。日本でもトップクラスの研究者と対話し、今まで知らなかった分野、発想、面白さを知ることが出来ました。大学生レベルの講義や実験のあと、先生達を質問攻めにしたのが懐かしいです。また、日常的に代表同士で学んだこと、疑問に思ったことを共有し合っていました。生物学を共に楽しめる人々で今でも仲の良い友達です。

国際大会では好奇心を刺激するような問題がたくさん出されました。難題も出題されて他国の人と問題に愚痴を言い合いました。各国の代表も面白い人がたくさんいました。なぜか道端にいるカエルをみんなで眺めたり、夜にひたすら蛾を捕っている人がいたりしました。夜にみんなで集まって遊んだのが懐かしいです。友と切磋琢磨し語りあった夢を今豊かにしたいと思う。

2020年を科学系オリンピックイヤーにして日本の理科教育を活性化しよう

松田 良一(国際生物学オリンピック日本委員会 コーディネーター、東京大学 教授)

オリンピック・パラリンピックが2020年、東京で開催されることが決まりました。これに向けて、国内では既に初等中等教育における体育やスポーツクラブへのさまざまな強化策が打ち出されています。JBOではこの2020年に向けた取り組みを理科教育にも波及させるべく、2020年のIBO大会の日本招致を目指しています。幸い、2013年11月に開催されたIBO運営会議において2020年IBO大会の日本開催が予備承認されました。2020年にIBO代表生徒になる世代は現在の小学生たちです。そこで小学生にも生物学啓蒙活動の範囲を広げ、理科教育の強化につなげていきたいです。東京オリンピックとIBO大会が開催される2020年を「スポーツと科学教育の振興を通じて国際親善に貢献する日本の姿勢」を示すメモリアルイヤーにしたいと願っています。多方面からのご支援をお願いします。



産学官連携ジャーナル2014年1月号より

第20回国際生物学オリンピック(IBO2009)つくば大会

7月12日からつくば市において56ヶ国・地域から221名の生徒の参加を得て開催された第20回国際生物学オリンピックにおいて千葉県立船橋高等学校3年の大月亮太さんが日本初の金メダルを受賞しました。そして日本の代表4名全員がメダル(金1、銀3)を獲得しました。

●オリンピック日本代表の成績

- 金メダル → 大月 亮太 (千葉県立船橋高等学校(千葉県)3年)
- 銀メダル → 中山 敦仁 (灘高等学校(兵庫県)2年)
- 銀メダル → 谷中 綾子 (桜蔭高等学校(東京都)2年)
- 銀メダル → 山川 真以 (桜蔭高等学校(東京都)3年)



第21回国際生物学オリンピック(IBO2010)韓国大会

2010年7月11日~18日に昌原において開催され、58か国・地域から233名の生徒が参加しました。

●オリンピック日本代表の成績

- 金メダル → 栗原 沙織 (北海道札幌西高等学校(北海道)2年)
- 銀メダル → 坂本 莉沙 (渋谷教育学園渋谷高等学校(東京都)3年)
- 銀メダル → 三上 智之 (ラ・サール高等学校(鹿児島県)2年)
- 銀メダル → 水口 智仁 (開成高等学校(東京都)3年)

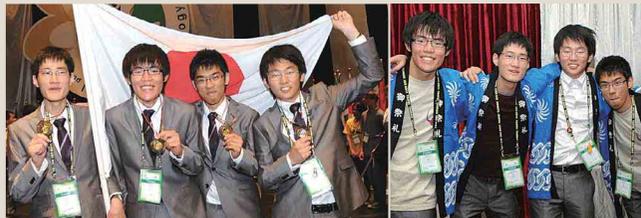


第22回国際生物学オリンピック(IBO2011)台湾大会

2011年7月10日~17日に台北において開催され、58か国・地域から227名の生徒が参加しました。

●オリンピック日本代表の成績

- 金メダル → 大塚 祐太 (千葉県立船橋高等学校(千葉県)3年)
- 金メダル → 久米 秀明 (筑波大学附属駒場高等学校(東京都)3年)
- 金メダル → 松田 洋樹 (筑波大学附属駒場高等学校(東京都)3年)
- 銀メダル → 三上 智之 (ラ・サール高等学校(鹿児島県)3年)



第23回国際生物学オリンピック(IBO2012)シンガポール大会

2012年7月8日~15日に開催され、59か国・地域から239名の生徒が参加しました。

●オリンピック日本代表の成績

- 銀メダル → 荒木 大河 (宮崎県立宮崎西高等学校(宮崎県)3年)
- 銀メダル → 野田 夏実 (桜蔭高等学校(東京都)3年)
- 銀メダル → 前田 智大 (灘高等学校(兵庫県)2年)
- 銀メダル → 依田 和樹 (筑波大学附属駒場高等学校(東京都)3年)



第24回国際生物学オリンピック(IBO2013)スイス大会

2013年7月14日~21日にベルンにおいて開催され、62か国・地域から240名の生徒が参加しました。

●オリンピック日本代表の成績

- 金メダル → 新宅 和憲 (広島学院高等学校(広島県)3年)
- 銀メダル → 横山 純士 (東京都立西高等学校(東京都)2年)
- 銀メダル → 中村 純斗 (埼玉県立大宮高等学校(埼玉県)3年)
- 銀メダル → 真田 兼行 (灘高等学校(兵庫県)2年)



第25回国際生物学オリンピック(IBO2014)インドネシア大会

2014年7月6日~13日にバリ島においてインドネシア大会が開催されます。



国内大会名の予選参加申込者数

年度	国内大会名	参加申込者数
2004	北京大会日本代表選考会	399名
2005	アルゼンチン大会日本代表選考会	547名
2006	カナダ大会日本代表選考会	963名
2007	インド大会日本代表選考会	1,488名
2008	生物チャレンジ2008	2,482名
2009	生物チャレンジ2009	2,693名
2010	生物チャレンジ2010	2,534名
2011	日本生物学オリンピック2011	2,922名
2012	日本生物学オリンピック2012	3,639名
2013	日本生物学オリンピック2013	3,706名